

平成 22 年 6 月 20 日現在

研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19320092
 研究課題名（和文） 早期英語教育指導者養成を目指した
 ヒューリスティックスの実証的研究
 研究課題名（英文） An Empirical Study on Instructors' Heuristics
 for Teacher Training in Early-Childhood English Language Education
 研究代表者
 古賀 友也 (KOGA YUYA)
 夙川学院短期大学・児童教育学科・准教授
 研究者番号：80321149

研究成果の概要（和文）：

本研究課題は指導者がさまざまな指導場面に応じて、指導方法や言語活動、教材について下す意思決定のための『経験則』を「指導者の『ヒューリスティックス』」と定義し、このヒューリスティックスを指導者間や指導者と授業観察者間で共有可能にし、指導者教育へ応用できる知識として提供することを目的とした。その結果、新たな授業分析結果の提示手法やタスク内容に見られる”distance”や”density”という新しい概念の発見、さらには英語活動内のタスク間のリンクに関する考察が、ヒューリスティックスの一部解明につながり、早期英語教育指導者養成のための重要な手法や視点を提供した。

研究成果の概要（英文）：

The major aim of this research project is (1) elucidating instructor's "heuristics", i.e. her/his decision-making strategies as s/he faces various classroom situations, and (2) putting the heuristics into practice for teacher training.

As the outcome of this project, various significant methodologies and viewpoints in English language teaching at early childhood were given and found, such as the COLT-Profilng method, concepts of "distance" and "density" of tasks and some instructors' heuristics.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2008年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2009年度	2,000,000	600,000	2,600,000
総計	6,400,000	1,920,000	8,320,000

研究分野：英語教育学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：早期英語教育、ヒューリスティックス、教師教育、授業分析

1. 研究開始当初の背景

2002年4月より、「総合的な学習の時間」において、「国際理解教育の一環として」小学校での英語教育が実質的に開始された。文部科学省が2006年2月に全国の公立小計約2万2000校を対象に行った調査によると、実に93.6%の公立小で英語教育が行われ、そのうち小1で実施している学校も75.1%に上っていた。さらに、様々な英語教育特区も誕生する運びとなり、小学校における「英語」の教科化・必修化の議論も過熱してきた。

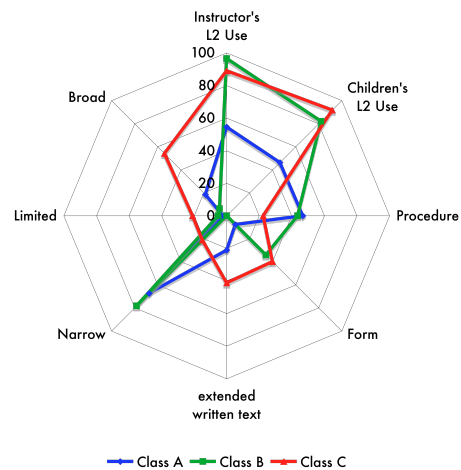
就学前英語教育に関しても、2001年の調査では園の活動として英語を導入している幼稚園の割合はまだ全体の6%にあたる15,000強であった。しかし、2006年現在、6歳児の23.2%が英会話などの語学の教室に通っている(ベネッセ調査)ことから、英語教育への関心は大きく高まっており、幼稚園・保育所での英語活動導入の割合もかなり高くなっていると推察され、潜在的英語学習者の若年化は顕著になっていく傾向が認められる。

これらの早期英語教育に関わる議論に応える形で、小学校におけるカリキュラム開発や実践研究などは多く行われるようになってきた。しかしそれと比較しても就学前英語教育に関する理論的・実証的研究は未だ少ないままである。この理由は、例外なく学習指導要領の影響下におかれる初等教育以降とは異なり、多様な場所で実施されている就学前英語教育に関しては、実践報告的なものや活動のノウハウに関するものが中心となったためであろうと推察され、それらを総合的・客観的に比較検証するような研究はこれまで希有であった。

その中で申請者たちは2002年のプロジェクト発足以来現在まで、長期的に観察された指導実践データを総合的・客観的に分析していくという手法により、就学前英語教育における指導者のヒューリスティックス(実践知・経験知)解明とその指導者教育への応用に関して研究を継続してきた。その結果、Sugino et. al (2004)やKawashima et. al (2004)では、Communicative Orientation of Language Teaching (COLT) Observation Scheme (Spada and Fröhlich, 1995)を分析の枠組みとして園児の発達段階に応じた指導者の指導の焦点の変容を数量的に明らかにし、ヒューリスティックスの一部を明示化した。またSugino et. al (2005)では、古賀ら(2005)で開発された「COLT-Profiling」の手法を用いて、異なる教育背景における英語活動を比較することに成功した。本プロジェクトにおける授業観察の継続はすでに4年間を超え、蓄積されている授業データ自体の重要性は言うまでもないが、それ以上に本研究に

関わるこれまでの成果はこのように国内はもとより、国際的な学術誌での発表を通じて多くの早期英語教育研究者たちに共有されるものとなっている。

図1 COLT-Profiling の一例



2. 研究の目的

本研究課題は、「早期英語教育に関わる指導者育成プログラム開発」のプロジェクトにおける一研究課題と位置づけられる。申請者たちは「指導者がさまざまな指導場面に応じて、指導方法や言語活動、教材について下す意思決定のための『経験則』を「指導者の『ヒューリスティックス』」と定義し、このヒューリスティックスを指導者間や指導者と授業観察者間で共有可能にし、指導者教育へ応用できる知識として提供することをプロジェクト全体の大きな目標の一つとしている。前述したように、これまでの研究では「ヒューリスティックの一部の解明」及び「ヒューリスティック分析や比較のための手法の開発」を成果として公開するに至っている。

本研究課題においては、これまでの知見を更に発展させ、(A) 指導者のヒューリスティックスを解明し、(B) その成果を早期英語教育に関わる指導者養成へ応用することを目的とする。

3. 研究の方法

研究期間初年度(2007年度)は、COLT Observation Scheme Part A を利用した授業分析と授業への省察アンケートを教師に行い、それをKJ法により分析した。2008年度・2009年度は、COLT Part A の分析に加えて、活動内容へのより質的分析を行い、活動間のリンク要因について考察を行った。

4. 研究成果

2007年度は本科研プロジェクトチームと兵庫教育大学、上越教育大学、鳴門教育大学の小学校英語教育プロジェクトとの間での共同研究という形態を中心として研究を実施した。このジョイントプロジェクトにおいては韓国での招待講演で2つの研究発表を行った。

一つは早期英語教育導入で先行している韓国での小学校英語活動を分析した。ここではこれまで授業分析の枠組みとして利用してきたCOLTによって、小学校2年生、小学校5年生のクラスを分析し、profileを作成した。それによって、これまで日本における就学前の英語活動クラスで用いてきた修正版のCOLTの利用妥当性を検証するとともに、早期英語教育の方法・内容における「density」と「distance」の概念の重要性を論じ、本研究課題において実施予定であるインタビュー分析などの質的分析の必要性を明らかにした。

さらにその結果を用いて「早期英語活動におけるteacher's beliefの比較研究」を実施した。これは、韓国で実施されている小学校英語教育の実践を観察後、日本の教員養成課程学生、小学校教師、中学校教師、高等学校教師などを被調査者として、「気づき」を列挙するよう依頼し、KJ法を用いて、teacher's beliefや視点の差異などについて分析した。どの被調査者もCOLT Part Aによって明らかになったdensityについての記述は比較的認められたものの、distanceに関わる記述には差が見られたことから、教師教育における授業観察の重要性や、現職教員の柔軟な姿勢の必要性が示唆される結果となった。

また、2008年度は、前年度の研究成果より得られた「早期英語活動の中でタスク内容が生活の文脈化に果たす役割」と「ヒューリスティックスの意識化とその効果に関する研究」を実施し、その成果は、2つの国際会議における研究発表によって公開された。

まずSugino et. al (2008)におけるタスク分析の考察では、英語学習を第一義とするタスクは「閉じた」ものとなりがちであり、「ことばの学習」としての早期英語教育の実現には結びつきにくいという可能性が示唆され、真の意味で「開かれた」、教室と外の世界をつなぐタスクとはどのようなものであるべきかが論じられた。

さらに、Koga et. al (2008)において、異なる授業を観察し比較するという授業観察課題を使用したヒューリスティックスの意識化実験を行ったところ、指導経験のない実習生は比較観察するという課題だけでは意識化可能なヒューリスティックスの種

類に限界が認められ、実践へと結びついていないという結果を得た。

そして、最終年度には、教室内外の世界をつなぐためのタスク内容の重要性に注目して研究を行った。COLT Part Aの分析とCOLT-Profilingによる概観をさらに質的な分析を行うことで考察を深め、言語活動を子どもたちの生きた体験とするためには活動間、活動内でのコンテンツのリンクとヒューリスティックスとしてその効果的な提示方法が必要であるとの分析結果を得た。

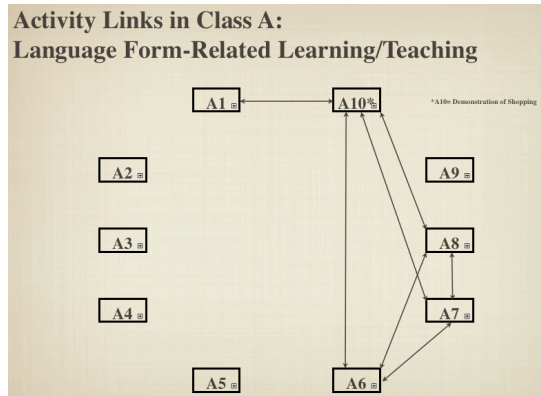


図2 活動間のリンク図の一例

本研究課題における研究発表は全て国際学会におけるものとなり、国内外の研究者へこのデータ分析結果とその考察は様々な知見を寄与するものとなった。指導者のヒューリスティックスの一部解明に成功し、それを効果的な早期英語活動へ応用することができた。本プロジェクトによるタスク分析の手法やタスクのリンクなど解明は、目的としてあげた指導者養成のための応用につながることから、研究成果に関しては概ね満足のいく達成度であると考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

Sugino, Naoki., Hirokatsu Kawashima, Yuya Koga. 'Tasks as Means to Mediate Between the Classroom and the World Beyond: Qualitative Comparison of Language Activities in Three EFL Classrooms for Children' *Proceedings of CLaSIC 2008: Media in Foreign Language Teaching and Learning*. 査読有り 2008. pp.554-561.

[学会発表] (計5件)

Sugino, N., Y. Koga, H. Kawashima, H. Ohba, Y. Nakata, N. Yamamori, Y. Kim, and H. Imai. "Characterization of Two EFL

Classrooms at the Primary Education Level in Korea.” The 1st Korea Teachers Associations Joint Conference & 2007 ETAK International Conference. 2007年9月8日. 国立公州大学校, 韓国.

Imai, H., H. Ohba, Y. Nakata, N. Yamamori, Y. Kim, N. Sugino, Y. Koga, and H. Kawashima. “A Comparative Analysis of EFL Teachers' Beliefs on Classroom Activities.” The 1st Korea Teachers Associations Joint Conference & 2007 ETAK International Conference. 2007年9月8日. 国立公州大学校, 韓国.

Koga, Yuya., Naoki Sugino and Hirokatsu Kawashima. “Changes in Teaching Behaviour of Teacher Trainees through Classroom Observation Tasks.” The 13th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics. 2008年12月5日. National University of Singapore, Singapore

Kawashima, Hirokatsu., Yuya Koga and Naoki Sugino. “Elaboration of Tasks as Means to Mediate Classroom Learning and the Outside World: Analyses of Language Learning Activities in Three EFL Classrooms for Children”. The 14th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics. 2009年7月31日. コーポイン京都、京都市.

[図書] (計2件)

古賀友也、川島浩勝、杉野直樹 他 三浦省五先生御退職記念事業会 『三浦省五先生退職記念英語教育学研究』 2007. 374 ページ

Sugino, Naoki., Hirokatsu Kawashima, Yuya Koga. Centre for Language Studies. “Tasks as Means to Mediate Between the Classroom and the World Beyond: Qualitative Comparison of Language Activities in Three EFL Classrooms for Children” Chan, W. M., Chin, K. N., Nagami, M., & Suthiwan, T. (Eds.) *Media in foreign language teaching and learning*. 2010:printing.

[その他]

6. 研究組織

(1)研究代表者

古賀 友也 (KOGA YUYA)

夙川学院短期大学・児童教育学科・准教授
研究者番号：80321149

(2)研究分担者

川島 浩勝 (KAWASHIMA HIROKATSU)
長崎外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：60259736

杉野 直樹 (SUGINO NAOKI)
立命館大学・情報理工学部・教授
研究者番号：30235890
愛知県立大学・外国語学部・准教授
研究者番号：50305497

(3)連携研究者

なし